



理科室より 東小の草花①

しごと きゆうけいじかん がっこう くさばな さが ある ちい はっけん ふ し ぎ み
仕事の休憩時間に学校の草花を探して歩くと、小さな発見や不思議をいくつも見つけます。

たいいくかん うら いがい しょくぶつ おお なかにわ はな さ
「体育館の裏は、意外に植物が多いぞ」「中庭ではもうシロツメクサの花が咲いているけれど、

こうてい ひ あ おな たぶん きがる で
校庭はまだ… 日あたりは同じくらいだから、多分…？」などなど。気軽に出来る事ができ

ひ つづ いえ まわ はっけん
ない日が続いていますが、家の周りでもたくさんの発見がありそうですね。



<ハルジオンとヒメジョオン>

みず す ねんせい みず とお みちかんさつ ちやうほう しょくぶつ がいこく にほん
水をよく吸うので、6年生の水の通り道観察で重宝している植物。これらも外国から日本へわたってきたのですが、
かんじ か
漢字で書くとそれぞれ「春紫苑」「姫女苑」。響きから名前も外国のものと思われがちですが、にほんめい
日本名なんですよ。

はる きしおん のばな せいそ ふんいき ひめしおん ひめしおん
春に咲く紫苑(キク科の野花)、清楚な雰囲気から姫「紫苑」…としたかったようですが、日本には「姫紫苑」という
はな
花がもともとあったので「女苑」の字が充てられました。

はる なつ くさばな おな ばしょ き
ハルジオンは春、ヒメジョオンは夏の草花ですが、同じ場所でいっしょに咲いていました。

<シロツメクサ>

はな すこ きき
花はもう少し先かな…とおもっていたら咲いてい
かぶ
る株がありました。

むかし かいがい とうき き ふね ゆにゆう
昔、海外から陶器やガラス器を船で輸入すると
きに、クッションとして乾いた花を詰め込んだことか
ら「白い詰める草」→シロツメクサとなりました。あか
いろ
色のアカツメクサもありますよね。どちらも種が花に
まぎれていて、それらから日本中に広がりました。

みぎした きいろ はな たね はな
右下の黄色い花は、カタバミですね。気が付か
ないうちにいっしょにと
いっしょ と
ないうちに一緒に撮っていました。



イラストの鳥はメジロ。花のミツ、特に梅のミツが大好物で、東小でも毎年、春先に見かけます。今は保護のため飼育禁止ですが、人なれしやすく、また鳴き声も好まれて日本ではペットとしても親しまれていました。

花が少ない・咲いていない時期は虫を食べてくれています。

ピッタリと体を押し付けるように並んでいる姿から「目白押し」という言葉がつけられました。